

2023年度第1回放送番組審議会 議事録

会 議 名	2023年度 第1回 放送番組審議会
日 時	令和5年11月17日(金) 18:00 ~ 18:45
場 所	㈱たけはらケーブルネットワーク事務所
出 席 者	委 員 会 : 森木副委員長・有田委員・北丸委員・國兼委員・豊政委員 吉近委員・和久利委員 タ ネット : 近藤常務取締役・吉原取締役(制作部部長)・笹川制作部担当 事 務 局 : 上藤取締役・三國 以上 11名

内 容

冒頭、近藤常務取締役より挨拶があった。
森木副委員長の挨拶に続いて議事へ進行した。

議 事

1) 審議テーマ タネットニュースLIVE 新コーナー 『深HORI』について

制作部部長(取締役) 吉原より番組企画の説明後、過去放送分のVTRを放映。

制作部担当者 笹川より『深HORI』企画制作のきっかけと経緯について説明。

近藤常務取締役より、竹原市の現状を伝える為に企画した番組である。タネットとしての報道のあり方とか皆さんの意見を聞かせて欲しい。

その後、審議委員より以下の意見や感想が出された。

- ・ 関係人口と交流人口の説明があったが、それがどのように関連しているのかをしっかりと伝えると良い。関係人口と交流人口が増えることでお金を落とすとしてくれ、定住している方が生業に就ける。

いきなり定住者を増やすのは難しく、市が観光に力を入れるのは、社会学の観点からみると当たり前のことであるが、それを批判するお年寄りの方が多く見受けられるため関連について伝えると良い。

- ・ 今までにない良い番組だと思う。

自分の住んでいる地域では、個人の住宅は増えているが、公のものが無くなってきた。

個人住宅が建っても若者の勤めるところが無いので人口減少は変えられない。

この何十年で企業が無くなり、その跡地が今もそのまま放置されて誰も手入れをしていない。

小学校も無くなる為、子どもを連れて住もうということが無くなる。

これを機会に取り上げて欲しい。

- ・ 結論から言えば素晴らしい番組だと思った。

人口が減っているというのは理解していたが、ここまで減っているとは思っておらず、この番組を見て家族で会話の議題にした。

問題定義をすることは非常に重要なことであるが、どこかを責め立てるようなナイフになってしまうと傷をつけるので、そのあたりの刺し具合をどうするのか非常に難しいと思う。

- ・ 現状をいろいろと調べられており、これからどういった方向に向かった内容になるのか。

⇒ 人口問題、子育て、高齢化、福祉など全部の方向となるがこれをやらなくてはならない。

今は、広く浅くやっている。

- ・ 賀茂川学園の準備委員会が始まったが、考えるほど寂しいことで、どうなるのかなということも含めて考えていかなければならないことである。

- ・ 地域の核は学校である。

小学校を中心にお年寄りがいろんな形でボランティアをしており、これが生き甲斐になっている。

- ・ 地元の小中学校生徒が全校で18人とビックリするほど少なくなった。
昔、駅前商店街で働いていた頃は、全部のお店が開いて賑やかだったが、今はほとんどシャッターが閉まっており、今は「ももねこ様祭」の行事の時のみ賑やかである。
竹原駅を降りてすぐある駅前商店街の活性化が出来たら良いと思う。
⇒ 駅前商店街の会員は、ピーク時83店舗あり、本川商店街が一体となり賑やかな通りとなっていた。
最初は大型店と競争をしていたが、今は竹原と東広島、三原などの地域間競争となり、大型店が無くなり竹原の力が落ちてくる。
- ・ 市の現状について、市民の方もなんとなくは分かっているけれど良く分からないことがある。
番組で発信することで起爆剤や井戸端会議での話のきっかけになれば良いと思う。
シリーズとしてどんどんやっていくと良い。
- ・ この番組自体とても良いと思っている。
若い世代が気付いて、今の竹原をどうして行ったらいいかというところの視点で皆さんに広報していく、それによって若い人はこういう考えを持っているんだという気付きを皆さんに与えていくという面ではとても良いと思う。
実際に子どもが減って高齢者だけが増えており地域行事がなかなか回らなくなっている。
地域で唯一集まっている年一回の行事さえも「やらない」ということになり出来なくなっている。
何らかの役を受けたらそれについて考えることが出来るが、普通に生活をしている中で自分が何も困ることがなければ考えない。
こういった気付きを持たせる番組は、とても大切だなと思う。
⇒ 地域コミュニティーの中心になる人が高齢化となり若い人にバトンタッチ出来なくなり行事を止めるという現状の中、タネットが取材することで、高齢者の方がもう少し頑張ろうかという面もある。
コロナ禍で止めた行事を復活させるというエネルギーがなかなか出ない。
そういった時にタネットが取材することでちょっと頑張ってくれるが、一時的なものである。
中心になる人の高齢化が竹原の一番の課題である。
⇒ 各地域のイベント復活を後押しする取材だけではなく、タネット自らがイベントに関わることで存在を検討している。
⇒ 今、学校教育が地域の特色のある「塩づくり、池田勇人、吉名のじゃがいも、東野の藤の木など」地域に根差した教育をしている。
- ・ 竹原市は少ないなりに健全な財政状態である。悪いところだけでは無く良いところも取り上げてはどうか。
- ・ 公共施設で空家になっているところも有効活用をする方法も含めて取材して欲しい。
- ・ 市議会議員の意識をもっと高めるため「市民はみんな関心をもって見ていますよ」というような取り上げをしてはどうか。
- ・ 組織を活性化させるひとつの方法論として「褒める」ということがある。
タネットが「竹原にはこんな素晴らしいところがありますよ」というものに光を当てると良いと思う。
- ・ 「深HORI」なので、一般的なことを言うだけでは駄目である。「何故か」ということが一番大事である。
やるからには「深」にしなければならない。
- ・ 議会中継での市議会議員の発言について、話している内容が「なんだかな、、、」と思う。
中国新聞が広島市議会の質問ランキングを出し、他市では議員の評価を出したところもある。
⇒ 竹原市議会では、発言人数についても他市と比べかなり少なく、取り上げたいとは思いますが、それがタネットの仕事なのかという思いもあり難しいところである。
- ・ 頑張っている市議会議員を取り上げてはどうか。

- お年寄りの方も「つまらん」と言うだけではなく、町の味方になって町を活性化させる側に回らなければならぬと思う。
⇒ 自分たちが竹原を愛さなければ来る人はいない。「竹原は良いところ」という発想を持って欲しい。
竹原の良いところと、頑張っている人にスポットを当てたいと思う。
- 高齢者の方がやってきたことをどこかで受け渡す方法をしてこなかった為に、次の世代の方はそれを自分たちが実際に町の為に何かやろうという気持ちにまで持ち上げることが出来なかったのが竹原市ではないかと思う。
意識改革は難しいと思うが、実際に引き継いでいる地域があり、そこを見習えるような、また、感覚が持てるような番組づくりにして欲しい。
- 交流センターに関しては、働き方改革により、教室や同好会ばかりとなり変わってしまった。
以前のように、地域の人がいっぱい集まり、課題に沿ったことをするなどの利用が難しく使いにくくなってきている。
以前は、公民館活動として無償であったが、今の交流センターは事業となってしまう、お金を払って使うようになった。
- 竹原市民が観光者に「竹原は何もない」ということが悲しい。
観光者のほうが竹原の良さを知っている。
タネットの『歴史浪漫』で竹原のことを勉強させてもらっている。
竹原の方にもっと竹原市のことを大好きになってもらいたいのので観光名所の紹介番組があっても良いのではと思う。

以上